

「無記」

登場人物

男

女  
1

女  
2

作  
サカイリユリカ

がらんとした空き地。

白いロープが2本、ピンと張られている。

そのロープの両端は、上手と下手にいる女に左手に1本、右手に一本、それぞれ握られている。

——そのロープの前で客席に背中を向けて佇む男が1人。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

女たちは掛け声に合わせて、縦横無尽にその2本の縄を操り、掛け声が止むのと同時にぴたりと動きを止める。

男 「通してください！」

女1・2 「(無視して、また縄を動かし) へーのーへーのーもーへーじ」

男 「通してください！」

女1 「上、上、上」

女2 「下、下、下」

男 「え？」

女1 「上か」

女2 「下か」

女1・2 「上か下か上か下か上か下か！」

男 「なんですか、なんなんですか」

女1 「後ろ向いて」

女2 「遊び、ましよう」

女1・2 「上か下か上か下か上か下か！」

男、女たちの勢いに押され、しぶしぶロープに背を向ける。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

間。

男 「上」

男、ロープの方を向く。

ロープは高くあげられており、男はその下をくぐり抜けようとする。

女1 「それは下！」

女2 「あなた上って言ったでしょ！」

女1 「おきてやぶり！おきてやぶり！」

女2 「もう1回！もう1回！」

男 「くそ・・・」

再び、男は後ろを向き、「へへのへのもへじ」が始まる。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「下！」

男は振り向くが、今度は地面にすれすれなところにロープがあり、くぐり抜けられそうにない。

女1・2 「(小躍りしながら) もう1回！もう1回！」

男 「くそ・・・」

三度目。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「下！」

振り向くと、腰より低いくらいの高さにあるロープ。

男はくぐり抜けようとする。が、途中で体がひっかかる。

女1・2 「しっばい！しっばい！」

女1・2、ロープで男の身体を元の位置に押し戻す。

男 「なんだよどうなってるんだ・・・」

男はあきらめずに、律儀にまた後ろを向く。  
また始まる遊び。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「上！」

男がえいや、と振り向くと、高く上げられたロープ。

女1・2 「しっばい！しっばい！」

男 「お前たち、動かしたんじやないのか！？動かしたんだろ？」

女1 「うたがい！」

女2 「ぬれぎぬ！」

女1・2 「おにちくしよう！」

男 「なんだよ、俺が悪いってのかよ？」

女1 「はやくやろう！」

女2 「やらねば」

女1 「やるとき」

女2 「やれ！」

男 「勝ってやる・・・絶対勝ってやるからな。見とけ！さあ来い！」

男、臨戦態勢になる。

女たちと男の息もつかせぬ攻防戦が始まる。

なお、男は「上」「下」と叫ぶたび振り向くが、ことごとく「失敗」する。だんだんと互いのスピードが増していく。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「上！」

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「下！」

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「上！」

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「上！」

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「下！」

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ」

男 「上！」

速度が速くなっていくとともに、いつの間にか「へへのもへじ」の文言が変わっている。

女1・2 「ゆーうーぎーい、むぎーいっ

男 「下！」

女1・2 「おーとーこー、おーんーなっ」  
男 「上！」  
女1・2 「いーまー、むーかーしっ」  
男 「上！」  
女1・2 「ほーんーとー、うーそっ」  
男 「下！」  
女1・2 「てーんーごーくー、じーごーくっ」  
男 「上！」  
女1・2 「まーるー、ばーっっ」  
男 「下！」  
女1・2 「しーろー、くーろっ」  
男 「上！」

男、だんだん混乱してくるがもはや乗ってしまった勢いは止められない。

女1・2 「みーぎー、ひーだーりっ」  
男 「み、う、下！」  
女1・2 「まーえー、うーしーろっ」  
男 「うし・・上！」  
女1・2 「あーたーまー、あーしっ」  
男 「あ、う、うえ、上だ、上！」  
女1・2 「きーのーうー、あーしーたっ」  
男 「し、し、し、下！」

男、ロープの下に滑り込むとするが叶わず、その場に崩れ落ちるように倒れる。  
男の荒い息と、女たちの無邪気な笑い声が響く。

男 「・・・降参だ」  
女1 「こうさん？こうさんこうさん！」  
女2 「つまんない！」  
女1 「こいつまだ生きてる！」  
女2 「まだ動ける！」  
女1 「立て！立て！立て！」  
女2 「やれ！やれ！やれ！！！」

男、なんとか体を起こすと、

男 「ほんとにこれで終わり？ 終わりなのか？ 俺は、間違っていないはずだ。  
間違っていないことを確かめに来た。なのに、なのに、なのに……」

うつむく男に、女たちの言葉が雨のように降り注ぐ。

女1 「死んだ」

女2 「殺した」

女1 「送る日」

女2 「送られる日」

女1 「ここは」

女2 「いつも」

女1 「同じ」

女2 「いつまでも」

女1 「いつまでも」

「どこか」

女2 「探す」

女1 「いつか」

女2 「また」

女1 「来るわ」

女2 「またね」

女1 「ここは」

女2 「いつも」

女1 「おな・・」

女たちの声の応酬を、男が遮る。

男 「もう1回だ。」

女1 「なんだ」

女2 「やっても」

女1 「同じ」

女2 「しっばい」

女1 「戻らない」

女2 「戻れない」

女1 「まちがう」

女2 「まちがえ」

男 「(強く) もう1回!」

女たち、顔を見合わせる。

2人はアイコンタクトしてうなずくと、

女1 「これで」

女2 「さっ!」

女1・2 「さよなら」

男、深呼吸する。

女1・2 「へーのーへーのーもーへーじ!」

男 (つぶやくように) 「・・・、まんなか」

女たち、一瞬固まる。

男 「真ん中だ、真ん中!」

男、勢いよく振り向く。

男の前には、ピンと張られた2本のロープ。

男はその2本のロープの間に出来た空間を、ひよいとくぐり抜けて「向こう側」へ降り立つ。

女たち、ふ、とロープを持つ手を同時に離す。

2本のロープは地面に落ち、道となる。

女たちは、その2本のロープで出来た道の上を、散りじりに走り出す。

男 「たがいま」

終